

新 任 教 員 の 挨 拶 と 紹 介

新任教授のご挨拶



薬学総合教育講座
教授
築地 仁美

この度 2022 年 4 月 1 日付けで、愛知学院大学薬学部薬学総合教育講座を担当させて頂くことになりました、築地仁美と申します。愛知学院大学薬学会の皆様方に、この場をお借りして自己紹介とご挨拶を申し上げます。

私は 1990 年に東京大学に入学後、1999 年に東京大学大学院薬学系研究科・博士課程（入村達郎教授、現・順天堂大学医学部客員教授、国際薬学連合薬科学部門長など歴任）を修了し博士号を取得しました。留学後に理化学研究所中川真一先生（現・北海道大学薬学部教授）のご指導の下で RNA 生物学の研究を始めました。神経変性疾患につながる小さな発見をしたことをきっかけに、本格的に神経難病の治療薬開発を目指したいと思い、理化学研究所脳科学総合研究センターの山中宏二先生（神経内科医、現・名古屋大学教授）に従事しました。小さな発見からの一連の成果をまとめて発表したところ、国内外の多くの研究者から講演や共同研究を頼まれるようになり、研究

成果を挙げることで社会に貢献できることを実感しました。2013 年からは名古屋市立大学薬学部 服部光治教授のもとで、学部生・大学院生の指導と機能形態学などの講義を担当し、教育のやりがいも強く感じました。また男女共同参画に関する委員会活動、講演や企画にも精力的に取り組んで参りました。

愛知学院大学では、社会で活躍する薬学人の育成と薬剤師国家試験のストレート合格率の上昇を目標に、特に低学年の低学力層の教育と教学 IR に取り組んでおります。2022 年度は、全体を俯瞰的に見る必要があることから、実に 17 個の委員会に所属し活動しました。2023 年度は基礎薬学教育委員会、学生生活委員会、統合型学習委員会の委員長を拝命し、重責の中、日々緊張しながら職務にあたっております。また 2024 年度から改訂される新しい薬学コアカリキュラムに対応すべく、愛知学院大学薬学部のカリキュラム改訂にも取り組んでおります。また配属生の卒業研究課題は長年取り組んできた ALS などの神経変性疾患を対象としたものとし、配属生の研究マインドの醸成に取り組んでおります。若輩者ではございますが、精一杯取り組む所存でございます。引き続き薬学会の皆様のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。